

(様式1)

大 学 名	京 都 大 学	学 問 分 野	生 命 科 学
専 攻 等 名	理学研究科生物科学専攻、霊長類研究所、生態学研究センター		
拠点のプログラム名称	生物多様性研究の統合のための拠点形成		
拠点リーダー氏名	西 田 利 貞	所属部局・職	理学研究科生物科学専攻・教授
プログラムの概要	京大の伝統である野外研究と最近発展のめざましい分子生物学研究を統合して、世界最高レベルの研究を推進し、「生物多様性科学」という基盤的な「知の体系」を構築し、マクロとミクロの生物学の有機的な統合体系のもとで大学院教育を推進する。		
拠点形成の目的・必要性	生物多様性の創生・維持機構およびその生態系機能や生物多様性と人類社会の相互作用の研究は、人類にとって緊急かつ最大の研究課題である。本拠点の形成は、生物学の多様な分野・研究手法を新たに統合し、多様性科学の創生を可能にする。多様な研究手法による共同研究は、生態系や生物社会のなかの重要な問題を抽出し、ミクロからマクロまでの生物現象を多角的に解明できる。大学院生の教育についても、「生物多様性科学」という統合された枠組みの中で、総合的な視点を持つ研究者を育成する。生物多様性科学の研究と教育の統合のために本研究拠点が必要である。		
研究拠点形成実施計画	以下の4つのセクションおよびそれらの共同研究によってプログラムを遂行する。 1) 多様性の生成機構の分子的基础：多細胞性が進化する際の遺伝的变化、ならびに形態レベルでの多様化との関連の探求。2) 多様性を成立させる生態系構造：生物間相互作用が生み出す生物多様性の機構と機能の解明、及び保全理論の確立。3) 多様性の進化機構の解明：植物の個体形成の分子機構の解明。多細胞動物の爆発的多様化と特異的遺伝子の多様化の関連の研究。4) 霊長類の多様性と人類進化の研究：類人猿を中心とした霊長類の社会・生態学的研究、類人猿や高等な真猿類を対象とした高次認知・脳機能の研究。		
教育実施計画	生物多様性をマクロとミクロの手法から接近するために、多分野の専門家によって学生を総合的に教育し、研究者と高度の知識人を養成する。 1) 学部学生に、生物多様性の基礎概念を学ばせるために、必修科目を決め、複数のモデル・カリキュラムを提示する。2) 初年度大学院生に1カ月間、異なる分野の教官が、生物多様性に関する最新の情報を集中的に講義し、インターラボ教育実習を実施する。3) 国際シンポジウムを開催し、大学院生に世界トップレベルの研究発表を聴かせ、また彼らにも英語によるプレゼンテーションの機会を与える。		

# 生物多様性研究の統合のための拠点形成

拠点リーダー  
西田利貞

生物多様性科学

ミクロ  
分子生物学

+

マクロ  
フィールド科学

生物学専攻

生成機構の  
分子的基礎の  
解明

生態系構造の  
解明

進化機構の  
解明

霊長類の多様性と  
人類進化の  
解明

総合的大学院教育

生物物理学教室 植物学教室 動物学教室 霊長類研究所 生態学研究センター